



## 同窓生の近況

### 柄澤 匡彦

北海道電力株式会社

平成14年情報工学科卒  
平成16年情報基礎科学専攻修士了



平成16年3月に修士課程を修了し、北海道電力に入社して3年目になりました。入社は札幌東支配電課で、今年度に転勤して、今は羽幌町というところに住んでいます。振り返ってみると、あっという間だった気がします。私はお客さまに電気を届けるという仕事を通して、地域の人々に役立てればと思い、この仕事を選びました。そういう意味では配電という仕事は、技術系の中では一番お客さまに近い職場なので、やりがいを感じることができます。しかし、大学では情報工学を専攻して、LSIの設計に関する研究をしていたので、入社当初は少々戸惑いました。

新入社員研修では実際に電柱に昇って電線を張るなどの作業もやりました。思ったよりも大変で、筋肉痛になることもたびたびありました。現場に配属されてからは電柱に昇ることはあまりありませんし、電線を張るなどの重労働はまずありません。その他には、見たこともな

い工具や材料の名前を覚えるなど、今までの大学での研究とは全く無縁だったので、大変でしたが得られるものも多かったです。

お客さまから申し出があった場合、技術的な内容であれば、ほぼ配電の人間がお客さま宅に向かうことになります。その内容はさまざまなものがあります。家の全部が停電、または一部が停電、さらにはある一つの電気機器だけ使えないなどの停電だけではなく、ブレーカの容量を替えてほしい、家の前の電柱が邪魔だからどけてほしい、メーターやブレーカからへんな音がする、などです。めったにはないですが、電磁波で体調が悪くなった、電気料金が急に高くなった、電柱にとまるカラスの糞に悩まされている、など中には厳しいお言葉も頂きます。台風や雷などの大規模な自然災害のときは、数日間昼夜を問わず、事故復旧に専念することになります。そのときは肉体的・精神的にも大変ですが、復旧が完了し、あたりに電気が灯ったときのお客さまからの感謝の一言を頂けると自分の仕事の大切さを実感し、やりがいを感じます。配電部門はお客さまに一番近い仕事ですので、会社の顔と言っても過言ではありません。これからもそのことを肝に銘じて、お客さまの信頼を得られるように電気の安定供給に専念していきたいと考えております。

最後になりましたが、同窓会皆様のみますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

### 佐々木 友謙

NECソフトウェア東北株式会社

平成15年情報工学科卒



平成15年に情報工学科を卒業し、もうすぐ4年の月日が流れようとしています。東北でIT関連の仕事をしたいという思いからNECソフトウェア東北株式会社に入社しましたが、社会人も4年目となった今、学生時代を振り返ってみると、青葉山で過ごした時間が非常に充実したものであり、その中で得た情報系の知識や物事の考え方、進め方が自分の礎となっていることを実感しています。また、今でも時折青葉山や川内を訪れることがあります。その度に懐かしい学生時代や厳しくも楽しかった研究室生活を思い出します。

在学中はモバイルネットワークの研究をしておりまし

たが、入社後は一転してLinux系OSの基盤ソフトウェアや組み込みソフトウェアの開発に携わってきました。入社後初めて従事した業務はNAS向けのLinuxカーネルの改造を行うプロジェクトでした。GPLの元で開発したプログラムは一般公開されますが、自分の作成したプログラムも公開され、エンジニアとしての責任を肌で感じることでできた仕事でした。

その後、携帯電話アプリケーションの先行開発に携わりました。先行開発ですので開発した機種は一般販売されることはありません。しかし、最新機種には当然のように搭載される機能を、膨大な量の規格書と睨み合いながら開発したことは一番印象に残っています。その大変さが功を奏し、当時の開発メンバーとは今でも飲みに行く仲です。

そして現在は、3GPPと呼ばれる第3世代移動体通信システムの交換機ファームウェアの開発業務に従事しています。業務分野が在学中に研究していた分野に近く、当時の知識を活かしながら仕事を進めることが出来ますが、やはり新しく参入した分野ということもあり、

相変わらず規格書と睨み合う日々が続いています。

ご存知のように、この業界は大変競争の厳しい業界であり、コスト削減等の競争の波が押し寄せています。そして、その中で、先端技術の習得や新しい知識の獲得など、社員一人一人が新たなことに積極的に挑戦していく姿勢が求められています。"挑戦する姿勢"はまさに私が東北大学電気系での勉強および研究活動を通して学んだことであり、学生時代に培った経験が今の自分にとって非常にプラスになっています。「環境が人を育てる」

## 小野寺 渉

パイオニア株式会社

平成2年情報工学科卒  
平成5年情報基礎科学専攻修士了



平成2年情報工学科卒業し、平成5年情報工学専攻修士了しました。大学では、平成16年に御退官された山本光璋先生のご指導の下、痛みの定量化に関する研究に携わりました。大学院修了後はパイオニア(株)に入社し、主に組み込みソフトウェアの開発に従事して今年で14年目となります。

昨年までは製品開発寄りの部署にて幾つかの製品開発に従事しましたが、その際に製品開発の困難さを感じることがありました。製品をより良くするための作り込みと、それと相反する納期厳守のための割り切りとの折り合いについてです。現在のデジタル家電では、機能増加による開発工数の増大が、ソフトウェア開発現場へしわ寄せとなって現れています。その負担軽減のために、プロセス改革やモデル開発手法等の導入が必要ではないかと考えています。

その一方で、元気のある白物家電に対し、デジタル家電ではデジタル技術が一般化してしまい製品の独自性を出すことが難しくなっています。これについては、

## 縫村 修次

三菱電機株式会社

平成12年電子工学科卒  
平成14年電子工学専攻修士了



平成14年3月に修士課程を修了し、三菱電機株式会社に入社して早5年になりました。入社後は尼崎市にある通信機製作所に配属されましたが、それまで関東よりも西へ住んだ経験が無く、当初は生活の面で戸惑いもありましたが、今ではすっかり関西の地にも慣れ充実し

とはよくいいますが、学生時代がそうであったように、このような厳しい環境であっても今までの経験を活かしつつ、自分の力を伸ばし、少しでも社会に貢献したいと考えています。

最後になりましたが、私自身現在も仙台在住ということもあり、同窓会の皆様には機会がありましたらぜひ御指導、御鞭撻よろしくお願い致します。また、同窓会の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

独自のコア技術を生かすことのできる分野の開拓と、これまでにないアイデアが今後重要と考えています。そのような着想を得る機会として、本同窓会が後援した東京フォーラム2005に参加しました。このフォーラムは、記念講演を始め、磁気ストレージ/無線/画像・映像といった3分野の次世代技術に関するセミナーと、70もの研究室によるポスター・デモ展示が揃ったもので、大学の活気ある空気が感じられるとても良い刺激となりました。次回の仙台フォーラム2006にも是非参加したいと考えています。

現在は長期テーマを扱う部署に替わり、製品開発現場との距離を感じるようになったため、日常に埋没せぬよう、各種展示会やセミナー、学会へと出かけています。一方、そのような外出の帰りに、都内を小一時間ほど歩くようにしています。いつもは足を向けない商店街や路地裏を通り、犬猫に出会うとか、気になったラーメン屋に入る(当たり外れがありますが)などのそぞろ歩きは楽しいものです。時には、大手町から新宿まで1時間半ほど歩いたこともあります。また週末には、買い物用自転車で多摩湖を半日かけて一周するなど、自然が残る武蔵野の景色をポタリング(自転車による散歩)で満喫しています。今後も公私ともに、知らなかった、気づかなかった人々・事柄・風景に出会っていききたいと思っています。

最後になりましたが、皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

た日々を送っています。卒業以来まだ一度も仙台を尋ねられていませんが、勉強、研究生活に勤しんだ地は今でも鮮明に思い返され、仙台の話題をTV等で見つければ、ふと懐かしく感じます。

私は在学中から高周波の研究を行っていたことと、将来は宇宙を相手にした大きなプロジェクトに携わりたいという希望があったので、衛星通信・電波望遠鏡事業に強い三菱電機(株)に就職しました。入社してから現在まで衛星通信用アンテナの設計・開発に従事していますが、入社してすぐの右も左も分からない状態で初めて携わったプロジェクトは今でも強く印象に残っています。社内的にもビッグプロジェクトだったということもありますが、設計から評価まで製品を作るためのサイクルを身を

もって経験できたことが大きく、また各専門技術のプロフェッショナルが集まりその力を結集して一つの製品開発にあたるチームワークの物作りは、大学での研究のように少人数あるいは一人でやるような作業ばかりが頭にあった私には強烈なカルチャーショックでした。また、会社となると仕事の規模が大きくなるのでプロジェクトを完遂した時の喜びも一際大きく、最近は特に低コスト・短期間開発というのがキーワードとなり競争がますます激しくなる中で忙しい毎日を送っていますが、この喜びを味わいたいということが日々の業務へのモチベーションに繋がっていると思います。

## 西井 憲治

中部電力株式会社

平成 11 年電気工学科卒  
平成 13 年電気工学専攻修士了



私は、平成十三年、中部電力株式会社に入社しました。大学では、超電導を応用した超電導発電機の P S S 特性の研究や大電流超電導導体の交流損失について研究をしておりましたが、当社の超電導情報が職場で回覧されるたび、年々忘れ去られていく超電導の基礎理論を思い出しては懐かしく思っております。

入社時から、流通部門の発電電課へ配属され、変電所、水力発電所の保守に携わり、保護制御装置の点検・工事などを行ってきました。初めて送電線の保護装置を取り替える工事を担当したとき、手順一つ間違えるだけでお客さまへの電気が供給できなくなることや工事作業者の災害が発生するなど非常に責任が重大な作業を管理しました。段取りを詰める状況は技術的な理論詰め、現場では緊迫感のある工事検査を実施し、無事に完工すること

ところで、卒業以来、来仙はできていないのですが、やはり毎年秋になると大学時代には恒例だった河原での芋煮会が懐かしくなります。実はここ数年ほど青葉会会員だけでなく、職場の同僚も誘って芋煮会を開催しており（味付けは当然仙台味噌です！）、毎回芋煮会に馴染みの無い方にも大変喜んで頂いています。今後もぜひ、芋煮や仙台の良さを関西でアピールしていけたらと考えている次第です。

最後になりますが、皆様方のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

ができました。普段では送電線への落雷故障を待ち望む事は無いのですが、取り替えた保護装置が実際に動作することを待ち望んだりもしたものでした。その装置は、半年後の夏の発電時に複雑な系統故障が発生し、正常に系統故障を除去できた時にはホッと一安心することができました。

最近では、系統安定化装置や制御装置等の装置保守・開発・研究担当業務を携わっております。電力系統の守護神でもある系統安定化装置は奥が深く、経験不足な点からも理論的な話でつまづいてしまうことも有りますが、大学の時に学習した系統安定度の知識をフル活用しながら微力ながらも業務を遂行しております。装置開発においてはデジタル技術の進歩に伴い、IP ネットワーク技術や電子部品の劣化診断など、通信や電子部品の知識も必要となってきております。装置トラブルが発生しては優れた技術に苦しめられる事も多いですが、系統安定化装置や制御装置等の装置開発を通じて電力の安定供給を目指すことが、微力ながら社会へ貢献できる良い機会であると考え、今後の業務に取り組んでいきたいと考えております。

最後になりますが、東北大同窓生の皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

## 叙勲・褒章・顕彰

下記の方々のご受章をお喜び申し上げます。

瑞宝中綬章 村上 孝一

瑞宝中綬章 野口 正一

紫綬褒章 江刺 正喜

## 訃 報

下記の方々の御逝去の報を受けました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

杉 守三 (電昭8)	平4年9月14日	佐藤 裕二 (通昭24)	平17年8月
大岡 松男 (電昭9)	平18年2月15日	酒井原 彊 (電昭25)	平18年2月5日
神谷 六郎 (電昭9)	平18年1月12日	宮城島勝也 (通昭25)	平18年7月16日
小野喜一郎 (電昭12)	平17年6月	松井 義正 (通昭26)	平17年7月7日
竹谷 武男 (電昭12)	平17年12月10日	長尾 重夫 (旧教官・昭27~37, 41~43)	
喜安 善市 (電昭14)	平18年12月7日		平17年12月24日
藤木 栄 (電昭15)	平18年1月11日	後藤 充 (電昭29)	平17年11月26日
白鳥 正夫 (電昭16)	平18年5月14日	白川 哲郎 (電昭30)	平18年6月24日
工藤 功 (電昭18.9)	平17年11月15日	渡辺 典昭 (通昭30)	平18年6月22日
内儀 忠恕 (電昭19.9)	平18年6月22日	村田 重夫 (通昭33)	平16年7月2日
小川 勝衛 (通昭20.9)	平17年9月4日	荒井 量夫 (電昭35)	平16年8月15日
近野 正 (電昭21.9)	平18年2月7日	唐木 武久 (電昭37)	平17年2月22日
田中 俊幸 (電昭21.9)	平18年5月30日	中西 俊之 (電通修昭39)	平18年1月18日
矢川 豊 (電昭21.9)	平18年4月27日	村田 和久 (子昭42)	平18年3月20日
木下 敏雄 (電昭22.9)		海老塚充由 (子昭48)	平18年5月
佐藤 鉄雄 (電昭22.9)	平17年6月20日	山本 勝弘 (通昭54)	平15年1月27日
島岡 祥一 (電昭22.9)	平16年9月27日	鈴木 幹夫 (通昭59)	平18年3月19日
井ヶ田徳治 (通昭22.9)	平18年6月25日	笹氣 光一 (情昭63)	平18年1月5日
野村道太郎 (電昭23)	平13年	田中 広之 (情平1)	平17年4月13日
牧野 克之 (通昭23)	平17年4月28日	山川 佳澄 (子平17)	平18年4月2日
陰山 俊樹 (通昭24)	平18年7月10日		

### === 同窓会からのお願い ===

冒頭の村上会長の挨拶にも述べられている通り、平成17年度及び18年度の電気系同窓会の会費納入率はそれ以前に比べて大幅に向上し、財務の状況がかなり改善しました。会員の皆様のご協力に心からお礼申し上げます。

財政状況の改善を受けて、平成18年9月15日の同窓会総会において、①平成19年度より同窓会費を3,000円から2,000円に値下げすること、②満80歳以上のシニア会員の会費を免除することの2つを提案し、ご承認を頂きました。また、これまで同窓会東北支部が主催していた新会員歓迎会を本部の事業と位置づけることについてもご承認頂きました。今後も同窓会便りの充実や同窓会活動の改善に努めていく所存であります。

このように、財政状況の改善に伴って今後の活動に弾みがついている状況ではありますが、会費納入率は目標に比べて依然として低い水準にあり、その向上が課題となっております。納入率をさらに向上することができれば、同窓会活動を更に充実できるだけでなく、会費の更なる値下げが可能となります。

会員の皆様におかれましては、この状況をご理解頂き、平成18年度会費が未納の方は、3,000円を郵便局またはコンビニエンスストアで納入頂きますようお願い申し上げます。

(庶務幹事 澤谷邦男)



### 東北大学創立百周年記念事業募金にご協力下さい。

<http://web.bureau.tohoku.ac.jp/100aniv/index.html>

財団法人 東北大学研究教育振興財団  
TEL : 022-225-1316 FAX : 022-225-2029  
E-mail : tuf-anniv100@jasmine.ocn.ne.jp